

(様式2)

校 種	④ ・ 中 どちらかに○	学校番号	4	学校名	宇都宮市立 築瀬小 学校
-----	-----------------	------	---	-----	--------------

令和2年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

- ・ 国語では、学年差はあるものの全体として「書くこと」の平均は市より高い傾向にあり、自分の考えを表す力が育ってきている児童もいる。しかし、領域別に見ると正答率は1番低く、言語領域も含めて習得に差がある。
- ・ 算数では、基本的な四則計算は身に付いてきた児童が多いものの、乗法や除法の意味の理解やグラフや表から読み取ったことを言葉や式で表すことに課題がある。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・ 「勉強をしておもしろい」「わかるようになることがうれしい」の設問についての肯定的な回答率はほぼ90%以上である。「チャイム着席」「授業を集中して受けている」の項目に対しても高く、落ち着いた学習習慣が身に付いているといえる。
- ・ 平日の家庭学習時間は、高学年になるほど宇都宮市の平均より高くなっている。学年が上がるにつれて学習習慣が身に付き、進んで学習に取り組む児童が増えることがわかる。その一方で、学習時間が少ない児童もあり、家庭学習に対する意識に個人差が見られる。

(3) 授業等への取組状況から

- ・ 本校の児童は、友達や先生の話最後までしっかりと聞くことができる。また、自分の考えをきちんと話すことができる児童も多い。しかし、「話し合いに進んで参加している」や「工夫してノートを書いている」については、消極的な児童もあり、話す書くスキルの継続的指導が必要だと思われる。

2 今年度の重点目標

「心を動かす」をキーワードとした主体的・協働的な教育活動を進める。

3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★、「令和2年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

(1) 心を動かす授業の継続的実践（年間を通して）

- ☐ 互いに高め合い学び合える学級集団づくり
- ☐ 主体的に学習を進められるような授業改善
- ☐ 心を動かす授業を展開するための「学び合い」活動の充実
- ☐ 観察・実験結果からの考察レポート作成や論述など知識・技能を活用する学習活動の展開による書く力の向上と話し合いの仕方、ノートの取り方・まとめ方などの指導の徹底
- ★☐ 漢字や計算などの基礎的な技能の習得

(2) 計画的・継続的な研修の工夫（年間を通して）

- ☐ 研究主題の実現に向けた校内授業研究会の充実と一人一授業の実施による授業力向上

(3) 豊かな感性を培う工夫

- ☐ 図書ボランティアによる読み聞かせ（通年）や全校一斉読書（毎週1回）の実施
- ☐ 読書週間関連各種行事の実施（読書集会、読書紹介、教師による読み聞かせ等）（6・11月）

(4) 家庭・地域との連携・協力（年間を通して）

- ★ 家庭との連携・協力による宿題や自主学習等の家庭学習の習慣化
- ★ 地域コーディネーターとの連携協力によるボランティアを活用した授業と学習支援の実施